

TOPICS

エリアニュース

地域のお話

けんさん
部会員同士で栽培技術の研鑽



JAきゅうり部会は7月13日、西部園芸センターで出荷規格指導会を開き、相互圃場巡回を行いました。

手ぬぐい1枚で手軽に作れる!



JA家の光記事活用グループの会員は7月19日、花泉宮農経済センターで手ぬぐいを使った帽子『カプリーナ』作りに挑戦しました。

薬剤散布は日差しの弱い時間に



JAねぎ部会は7月14日、管内2会場で夏期栽培管理の指導会を開きました。

水田の生き物を調査



JA平泉青年部は6月26日、平泉小学校5年生児童17人と水田に生息する生き物について調べました。

ステージイベントも多彩に



JA一関青年部相川支部は7月22日、ビールまつりを開き、地域住民も集まり生ビールとステージイベントで盛り上がりしました。

産地責任を果たすためガンパロウ三唱



JA花き部会小菊専門部は7月12、14の2日間、小菊の出荷規格目揃え会を開き、意識統一を図りました。

学校の授業に生かして



一関地方教育研究会小学校家庭教育部会は7月28日、夏季研修会を行いJA生活シーダーの佐藤米子さんと、佐藤チヨさんを講師に豆腐作りとおから料理2品に挑戦しました。

笑顔で野菜作りを学ぶ



JA女性部室根中央支部は7月20日、販売推進課の荒川透課長を講師に迎え、秋野菜作り研修会を行いました。

地元の富沢神楽出演で大盛況



JA一関青年部真滝支部は7月16日、33回目となるビールまつりを開きました。

歴史的価値のある
農業用水利施設を学ぶ



中里12区農家組合(一関)は7月9日、研修会を開き田畑に水を運ぶ照井堰用水の概要を学びました。

ナイスショット連発!



JA年金友の会花泉協議会は7月19日、グラウンドゴルフ大会を開き、会員65人がプレイを楽しみました。

ビールのお供にやきとりどうぞ



JA一関青年部中里支部は7月29日、生ビール大会を中里支店駐車場で開催しました。女性部の野菜夕市も同時開催され、約200人の来場者で盛り上がりしました。



管内産野菜をPRする佐藤組合長

「いわて平泉野菜」をPR

築地市場でトップセールス

JAは7月12日、東京都の築地市場でトップセールスを行いました。JAの佐藤鉦一組合長^{はっぴすがた}の他、長田仁一関市副市長、青木幸保平泉町長、JA生産部会役員らが法被姿で、トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、ミニトマトを中心とした野菜をPR。卸業者らに新鮮なトマト、ミニトマト、キュウリの他、漬け物にしたナスとピーマンの試食を振る舞い、今年の品質をアピールしました。



来客者と対話しながら販売する青年部員

駅マルシェで新鮮野菜をPR

JAとJA青年部

JAとJA青年部は7月17日、JR一ノ関駅東口通路で行われた駅マルシェに出店。新鮮な野菜、管内産米、りんご・とまとジュースなどを販売し管内産農産物のPRをしました。JA青年部は、今回初出店しトマト、スイートコーン、タマネギなどを販売。青年部の大住正樹さんは「来客者の反応や対話から参考になることがあり今後に生かしていきたい」と話しました。



トラクターの操作を学ぶ参加者

地域で活躍できるオペレーターを養成

一関地方農林業振興協議会

一関地方農林業振興協議会は6月30日、一関地方農業女子等オペレーター研修を金ケ崎町の県立農業大学校で開きました。16人が参加し、農業機械の保守管理と操作、農作業安全について学びました。緑のふるさと協力隊として一関市川崎町で活動している中芝浩美さんは「座学後の実習だったので、理解できた。アドバイス通り操作したらうまくできてうれしかった」と話しました。



選果機の動きに見入る児童

たくさんの野菜にビックリ!

興田小児童が選果場見学

興田小学校(大東)の5年生19人は7月10日、東部園芸センターを見学しました。東部園芸センターの後藤忠行センター長が施設について説明。児童は最盛期を迎えたキュウリとトマトの選果の様子などを見学し次々と選別される野菜の流れに目を釘付けにしました。藤森太壱くんは「トマトの色など出荷するのに基準があることが分かった。選果場にはいろんな機械があって楽しかった」と目を輝かせました。



米などの商品をPRする参加者

海外の市場調査に乗り出す

台湾国際食品見本市フード台北

JAは6月24日までの4日間、台湾国際食品見本市フード台北に出展し市場調査を行いました。管内産の米やりんご・とまとジュースをPR。受け入れられる商品としての確証を得ましたが、輸送コストなどの課題が浮き彫りとなりました。販売推進課の荒川透課長は「現地の声を肌で感じる良い機会だった。国内外問わず積極的に市場調査を行い、生産者の所得向上につなげたい」と話しました。



作業を確認しながら指導する木村さん④

子育て世代を応援し隊

第1回わくわく親子広場

JAは7月20日、第1回わくわく親子広場を川崎市民センターで開きました。入園前の子どもを持つ母親とJA女性部フレッシュ部7人が参加。女性部と職員による託児サービスも行いました。野菜ソムリエプロの木村千恵美さんを講師に、旬の野菜で子どもが喜ぶ簡単料理として豚そぼろとキュウリの混ぜずしなど5品に挑戦。子育て世代がJAを身近に感じるきっかけづくりとなりました。



今年の販売への期待を込める加藤賢一部会長

1箱増量運動に取り組む

花き販売4億5700万円目指す

JA花き部会は7月3日、花き販売対策会議を開きました。部会代表者や市場、行政など関係者40人が出席。収穫適期管理を徹底し1人1箱増量運動を展開することを確認しました。長期予約相対販売の拡充で価格の安定化を図り農家所得向上を目指します。市場からは安定した販売に向け産地状況や出荷見通しなど情報の共有をしていきたいなど要望が寄せられました。

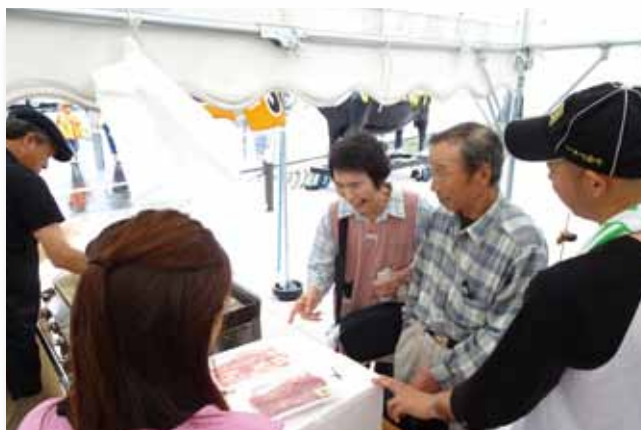


茎が折れないように、慎重に幼穂を探す児童

稲の赤ちゃん見つけた!

金沢小学校幼穂観察体験

金沢小学校(花泉)の5年生児童24人は7月18日、稲の幼穂観察を行いました。地元農家の佐々木弘さんや花泉宮農経済センター職員の指導で太さが5ミリの満たない稲の葉をカッターで1枚ずつはいでいく細やかな作業に挑戦。幼穂を取り出した瞬間には満足げな笑顔を見せました。高橋美音さんは「細い茎の中に幼穂が入っているなんて驚いた」と目を輝かせました。



販売の様子(道の駅平泉)

いわて南牛販売促進フェア

いわて南牛Pro5

JA管内の若手肥育、繁殖農家で構成する「いわて南牛Pro5」は7月23日、いわて南牛販売促進フェアを開きました。地元での知名度向上と地産地消を図ろうと実施し今年で4年目。今年から3会場に増やし、より広く消費者にPRを行いました。佐藤良代表は「地元で生産した牛肉を地元の人に食べてほしい。消費者が喜んでくれる質の良い牛肉づくりに今後も取り組んでいく」と話しました。



▲農家組合員の連携と強化を呼びかける沼倉初雄会長

◀自己改革の重要性を講演した藤巻次長

呼称などの統一を確認

JA農家組合協議会

JA農家組合協議会は7月4日、農家組合長全体会議を一関文化センターで開きました。旧JA間で異なっていた呼称は今後「農家組合長」に統一。農家組合長手当や農家組合育成費の支出基準を統一し、今年度に限り激変緩和措置を講じることを確認しました。会議の中で全国農業協同組合中央会JA経営改革推進部の藤巻美由紀次長が講演し、JAの自己改革について理解を深めました。

おむすびの具を選ぶ参加者



地元の自然と食材を満喫
地元食材をバーベキューで味わう

JAは7月27日、ちゃぐりんキッズフェスタ2017を平泉町長島の西行桜の森で開き、管内の児童ら36人が参加。自然散策やおむすび作りなどを体験しました。昼食はシーチキンやおかかなどの具を握ったおむすびと、いわて南牛やナスなどの地元食材を味わいました。山口詩織さんは「おむすびを三角に握れてうれしかった。地元食材はとてもおいしかった」と笑顔を見せました。



名誉賞に輝いた高泉さん



共励会へ出発するいわて南牛

高泉茂美さんの牛が名誉賞

第9回いわて南牛枝肉共励会

第9回いわて南牛枝肉共励会が8月1日、東京食肉市場で行われました。管内から40頭が出品され、高泉茂美さん(花泉)の去勢牛が最高位の名誉賞に輝きました。上物率97.5%と前回の90%を上回りレベルの高さを見せました。平均単価は2571円と前回を上回る好成績となりました。その他の入賞者は次の通り。(敬称略)
▽優秀賞=皆川明文(花泉)、小山平治(藤沢)、及川正一(藤沢) ▽優良賞=佐々木信行(花泉)、佐々木賢治(花泉)、皆川明文(花泉)